

授業 「ぼくも私も買い物上手 ～買い物のごっこ～」

授業 「『単位』はかせ』になろう ～重さしらべ～」

## 1 提案の主張点

<授業 (1・2組)> 生活单元の中で障害児学級の子どもたちにとって必要な算数の力(「数量の認識」「金銭管理」「時間の感覚」)を育てること等を考え、「実生活で活用できる能力を育てる」「算数の学習を生活につなげる」ことを目標に本单元を設定した。指導に当たっては、実際に買い物の場面を取り入れ、お金のやりとりを行う場の設定をすることにより、学びの場を広げる。また、算数的活動を毎時間取り入れ、自分の計算の方法を考える場を設定するとともに、フラッシュカードによる計算練習や自分の力に応じた練習問題に取り組む活動等によって、一人一人に応じてスキルアップを図っていききたい。

<授業 (3組)> 本单元は、長さやかさの学習をもとに、重さの概念についての理解を図り、秤という計器を用いて測定できるようにするとともに、量の大きさについての感覚を育てることをねらいとしている。本学級は、難聴学級(2名在籍)であり、生活経験や語彙数 話を聞き取り理解する力などに個人差があり、自分の考えをもったり、それをもとに話し合ったりすることが十分ではない。そこで、生活経験を想起したり算数的活動に取り組んだりすることにより、自分の考えをはっきりもち、問題解決をめざして進んで話し合ったり友達の考えを聞いたりしようとする力を育てたい。

## 2 提案に対する意見 質：質問 意：意見 授：授業者

意 障害の程度によって指導が難しいが、どのような配慮をしているか。

授(3組)難聴であることから、ゆっくり話をする等、より障害の重い子に合わせた指導を心がけている。

意 発音を意識しゆっくり話したり、どの程度伝わっているかを確かめたりしながら学習を進めているのがすばらしい。

質 障害児学級で授業公開をするにあたって、障害に合わせた学習の組み方や教室環境等での工夫点は？

授(1・2組)算数の研究会であるが、その中で障害児学級として授業公開をすることは、子どもたちにとって交流学級の先生や友達に認めてもらえるよい機会

であると考えた。また、1・2組を合わせたの学習にしたのは、互いに助け合ったりほめ合ったりすることで、算数の力を高めていきたかった。環境が変わるとパニックに陥りやすい子どもたちの実態を考慮して環境づくりに努めた。

(3組)学習内容は交流学級と同じで、ゆっくり学習を進めている。交流学級の先生から課題をもらったり、課題解決の結果を報告したりと、交流学級とのつながりを持たせながら学習している。

意(3組)交流学級の子と同じ内容の学習をしていることがよい。学習規律もきちんと指導されていて、参考になった。

(1・2組)お金の概念は難しく、なかなか身に付かない。知的障害の子どもには、繰り返しの指導が大切である。

## 3 御指導

・どちらの授業も算数的活動があり、先生と子どもで創り上げていく授業であった。

・子ども一人一人を普通の子どもと見て、4つの力(「新しいことを知ろうとする力」「ふさわし力」「身に付けたことを生かそうとする力」「チャレンジしていこうとする力」)を育てようとしている。

・子どもにどんな力を付けたいのかをはっきりさせ、めあての持たせ方や指導の手だてが明確になっていた。

・子どもが失敗したときの配慮が適切であった。

・子どもが困った場面で、ヒントカードや既習をうまく使う学び方などを示したことが大変よかった。

・子ども自身ができるようになったと自覚できるような目に見える評価をしていた。

・障害児学級の子どもたちは、障害物があると越えられずにパニックに陥ってしまいがちである。その障害物をうまく越えさせていくことが教師の役割。しっかりと子どもに寄り添い、共に乗り越えていこうとする授業であった。

・お金の概念の指導は難しいが、体感することが大切。経験を積ませる工夫をしてほしい。